

## 「子どもと高齢者でつくろう！ 安心感と信頼感のある地域」

2012. 6/9 6/11 6/14 「忍者、参上」黒沢、都万、阿井の巻



平成18年度から開設した「子どものための子ども専用電話 子どもほっとラインもしもしにゃんこ」。子どもたちのキモチに耳を傾ける中で、私たちはコミュニケーションや人との関わりの力が落ちている現状を改めて感じ、自分たちでできる手立てのひとつとして、楽しく人とのかかわりを学ぶ講座を始めました。

今年度は、島根県共同募金会の助成を得て「小学生と高齢者の講座」を6月と11月にわけ計6講座企画し、6月コースは、6/9、6/11、6/14の計3日間実施しました。

- 6月9日 浜田市三隅町黒沢公民館 10:00~11:30 小学校1-6年生30名と地域の方、先生方  
(三隅自治区公民館連絡協議会と協働で実施)
- 6月11日 隠岐の島町立都万小学校 9:20-10:50 1-3年生36名と地域の方、先生方  
(隠岐の島町教育委員会 都万公民館、都万青少年育成会議、都万小学校と協働で実施)
- 6月14日 奥出雲町立阿井小学校 9:30-11:00 1-2年生24名と地域の方、先生方  
(阿井公民館、阿井小学校と協働で実施)

実施にあたっては、公民館・教育委員会・小学校と協働で実施し、講座の周知、子どもや地域の皆さんへのよびかけ、参加依頼、当日のバックアップ等していただきました。

講師 NPO法人 あそび環境Museumアフタフバーバン  
専任スタッフ 金子さん さん  
専任スタッフ 北崎圭太 さん  
スタッフ 大雅賀代 さん の3名



なぜ、子どもの事業に高齢者？ この5年間、高齢者の皆さん向けの講座を出前講座でのワークショップ以外にもアフタフ・バーバンと共に「いずみこんこんわくわく座」や「高齢者と関わる人のワークショップ講座」などを企画開催する度に協働開催する団体や皆さんからの質問でした。

それは簡単なことです。高齢者さんは、古（いにしえ）からの数々の教えのように智慧と知識と経験の持ち主は地域の宝、そしておひとりおひとりが地域の図書館のような存在です。この力は、子ども一人ひとり子育ての糧になります。そしてその元気さと笑顔は子どもの元気さにつながります。そしてそして何よりも、私たちは、皆さんに「地域の電話」になってほしいとねがっています。畑で田んぼで、家のまわりで、たぶん仕事に忙しい親世代よりも子どもたちに接する機会が多いのではないのでしょうか。「おはよう」「おかえり」「どうしたかね？」そんななにげないことばを子どもたちに当たり前のようにかけていただければ、と思います。「もしもしにゃんこ」ではできないことがそこにはあり届けられないものもあります。「自分のことを気にかけてくれている人がいる」というキモチ、もらったり交わしたりする笑顔、それだけで心も強くなり、また見守られているという安心感につながります。またそんな高齢者さんのいる地域は安全な地域にもなっていくと思います。

さて、三日間のようすを少しですが掲載します。



なんで小学生と忍者ごっこするだかね、と小学校や公民館などからお願いされ出てきてくださった皆さん。もちろんお客さん状態、私にも遠慮がちです。

前日や朝一番の仕事は「チャンバラ剣」づくりです。黒沢公民館では三隅地区の公民館主事の皆さんがかけつけてくださいました。都万、阿井でも参加者の皆さんが手伝ってくださいました。三枚の新聞紙を丸めるだけですが、人により細い剣、太い剣ができます。「あんまり細く堅いのを作られないがよいですよ、新聞紙とあなどらないでください、足だけといっても本気になると結構痛いもんです」

「太いのは折れて子どもには人気ないですよ」などと話ながら70本程度作成していきます。作りながら幼い頃のチャンバラごっこの話や忍者ごっこの話もです。きっと当時の姿で自分も近所の〇〇くんや〇〇ちゃんのようなすも思い出しておられるなーと思いつつ武勇伝(?)を聞きました。

名札も白いガムテープに、「今日呼んでもらいたい名前」や幼い頃呼ばれていた名前を書いて貼ってもらいます。「よっちゃん」「ひろちゃん」呼び合うだけで笑いがひろがります。



そして講師と皆さんで顔合わせ。簡単なワークを交え、楽しく参加者のキモチをほぐし、お互いを知り、壁を低くしていきます。そのあと今からの流れの説明と持参の風呂敷一枚で「忍者に変身」する練習をします。あらー、こんな簡単なこと！ かわいいよ、似合ってますよ。かっこいいですよ、お互いの変身ぶりにまた

花が咲きました。

小学生の皆さんの変身もみんなの手伝い、いざ修行。

音楽と共に現れた「忍者」お月見太郎、トマトコロコロ、青空チュチュン！ の三人。名前に笑いこける小学生





たち、高齢者のみなさん。忍者ごっこのはずがなかなか本格的!?最初から盛り上がります。



そして地域の皆さん、お客さんのつもりで来たのに、

前に出て「見る修行」「聴く修行」のお手伝い。すっかり主役です。小学生のみんなの歓声に参加者も笑顔がたえません。

変身修行からは、小学生 3-4 人に地域の皆さんが一人二人はいりチームになります。



石になったりオロチになったりお地蔵さんにみんなできたり・・・変身修行を重ねるうちに、出逢ったばかりのチームも打ち解けていきます。高齢者さんにあわせ、少しいつもよりはゆったりと進みますが、童心にもどった皆さんは年を忘れ、ヒートアップ。休憩もとりながら、さらにワークは進みます。

三隅は地元の伝説にちなみ「かっぱ」が登場。巻物を探す、公民館のなかに隠されたたくさんの巻物を探しだしてくる、ただそれだけなのに「黒（影）忍者」の存在と「かっぱ」の存在はなかなか怖く、女の子のグループは部屋からでることができません。それでも犬に変身したり石に変身したりお地蔵さんに変身したりと皆で協力し合い、巻物を集めます。



都万小は、30 の数を数える間に小学生がかくれ、おとながそれを探すという修行。ひとりみんなと反対方向に走り最後まで隠れ通した男子に拍手喝さい。でした。またU字溝にすっぽりと見事に隠れていた子どももいて、もう少しで見逃すところでした。そしておとな・子ども選手交代。幼いころ、見つからないように、そしてみつけてと複雑なキモチで隠れていた頃が思い出されます。



阿井小学校は「お宝さがし」。校庭にあらかじめ隠された品物を、渡された指示書をたよりに探します。そしてそれだけではなく、関所にいる忍者にその品物を本来の使用目的とは違ったものとして通過する。この2つの難題に挑戦です。探しますのもチームの結束力とコミュニケーションが重要です。また、そのものをなにもみだ



て関所を通過するかは、コミュニケーションに欠かされない想像力を駆使しないと行けません。

指示書にあったものを糸車だと探したチーム。見つけるまでも大変でしたがここからさらに難関。これをいったい何にたとえるか・・・

みんなで考えたものは「ハムスターの家」。



ハムスターになったの全員での大熱演、見事に関所の通過です。

そしてこのとき私は聴きました。この糸車がたたとたん、そばにいた男子のつぶやきを。

「わぁ！ 小人（こびと）の観覧車だーッ！」

洗濯かごのチームはカメの甲羅だといひ通過、

物干しざおのチームはレスキュー隊のホースだといひ、忍者に放水銃のように向け通過などなど・・・、小学生低学年ならではの想像力・発想力は「すごいすごい！」、どうぞそのままそのココロを大事に大きくなって！と心から思いました。



そして最後は「チャンバラ修行」。小学生チームとおとなチームにわかれ、自分たちの旗を相手の陣地からとってきます。



わしゃ、小さいころはチャンバラ得意だったが、というじいちゃん忍者でしたが、数メートルすんだところであっけなく切られ、SOS。しかし、タッチして助けるはずの仲間もふりむけばみんなアウト。

それでも笑顔が満載でチャンバラを楽しむ皆さん。見守るお頭に扮し後から登場予定の校長先生忍者も、しっかり背中に剣をさしたり、片手にりりしく剣をもったりしてウズウズしているキモチが伝わります。

最後にお頭から修行の証の巻物をさすかり、1 時間半はあっという間に過ぎました。

イヤーイヤー、疲れた、楽しかった、口ぐちにするそのことばとがっちり小学生たちと握手をしてわかる皆さん。時間をそして修行を共有した思い出と信頼感、伝わるものがありました。



ふりかえり、反省会では

『これは子どものための「あそび」におとながわしらがつき合うと思ってきたが、これはおとなのためのものだった。おとながこんな体験をいっぱいして子どもらとむきあわんといけん。今日はいっぱい教えられた。』

という、まさに私たちが口にはださなくても、主催者としてねらっていたものを、そのまま感じてもらっていたことに熱くなるものがありました。

童心にかえった、用事をことわってきてよかった、若くなった気がする、子どもらの発想には感心することしきり、など皆さんそれぞれがたくさんのことを感じてくださいました。

そして私たちが「もしもしにゃんこ」からこのようなワークショップに至った経緯、「もしもしにゃんこ」の現状、「地域の電話にひとりひとりがなってもらえたら」という私たちの思い、皆さんリーフレットをみながら頷き、真剣に聴いてくださいました。

来年もぜひやりたい、そう言い残し、皆さん元気に会場を後にされました。

今回も、公民館や学校の皆さまには多大なご支援をいただきました。事前の準備と前日の仕込みから朝早くからの手伝いと各会場のお心遣いとサポートに厚く御礼を申し上げます。島根には心あたたかき人たちがたくさんいる、思いを共有できる人たちがたくさんいる、これはほっと・すぺーす 21 のみならず、講師アフタフ・バーバンにも、そして県内の思いを同じにする人たち同士にもおおきな支えであり力です、11 月もまた楽しく元気にやりたいと思っています。

